

ともえ



繁栄を
あなたと育てる
商工会議所



金森美術館 (旧金森船具店)

No. 145

函館商工会議所報
1993——9月号

はこしんは豊かな暮らしと
確かな未来の実現に
お手伝いいたします。

みなさまの



函館信用金庫

本部 函館市豊川町7番19号 TEL22-1241(代)

本 店	函館市豊川町15番20号	TEL 22 -1247(代)	亀田支店	函館市亀田本町56番4号	TEL 42 -3820(代)
松風町支店	函館市松風町11番15号	TEL 23 -6221(代)	中道支店	函館市中道1丁目24番12号	TEL 51 -1711(代)
ばんだい支店	函館市宮前町14番15号	TEL 41 -6236(代)	上磯支店	上磯郡上磯町飯生町2丁目4番24号	TEL 73 -2151(代)
五稜郭支店	函館市本町30番24号	TEL 52 -0511(代)	えさん支店	亀田郡恵山町字中浜115番の4	TEL 84 -2111(代)
弁天支店	函館市弁天町13番11号	TEL 26 -3646(代)	七飯支店	亀田郡七飯町字本町392番8	TEL 65 -2501(代)
千代台支店	函館市千代台町12番22号	TEL 51 -5238(代)	木古内支店	上磯郡木古内町字本町53番1	TEL 木古内 2 -3121(代)
湯川支店	函館市湯川町2丁目18番7号	TEL 57 -1492(代)	知内支店	上磯郡知内町字重内13番地の11	TEL 知内 5 -5611(代)
花園支店	函館市日吉町1丁目27番3号	TEL 53 -5521(代)			

Lhくみのローン

手続カンタン
スピード融資

目的ローン

マイカーローン

ビジネス・オート
ローン

★詳しくは窓口へ
お問い合わせ下さい。



・コミュニティバンク・

函館商工信用組合

本店 函館市千歳町9の6 ☎(代)23-2101

- 湯川支店 ☎57-0572(代)
- 上磯支店 ☎73-2308(代)
- 美原支店 ☎46-9121(代)
- 十字街支店 ☎26-5544(代)
- 花園支店 ☎55-2110(代)
- 富岡支店 ☎43-1311(代)

●ともえ9月号(通巻145号) 目次

今月の表紙／視点 2 5 1
 会議所の動き 2 5 1

・第8回常議員会開催

・日商会議所に稲葉氏を選任

・合同部会開催

・道経連・地域経済懇談会開催

・函館空港国際線ターミナルビル起工式挙行

・青函ゆかりの会5周年記念祝賀会開催

・姉妹都市提携1周年ウラジオストック訪問

・中小企業大学校総合診断実習を実施

データをチェック 6 6

調査レポート 6 11

・地域の景気―金融経済概況(八月)

・市内第一種大規模小売店舗売上高(八月)

・函館地域における景気動向(平成五年年度 第1四半期)

誌上講演 12 13

・エイズと企業―予防と対策(4)

・人を活かす

共済推進コーナー 15 14

・暮らしのワンポイント

・さわやか君

・有段を目標して

アドバイスコナー 16 17

・公的年金制度のしくみ(6)最終回

Q & A 18 19

・みんなの相談室

・脱藩相談
 労務相談

ご案内 20 23

・会員懇親の集い

・(第2回)サハリン友好の翼

・検定試験のお知らせ

・北海道制度融資ご案内

・ご利用下さい/本所の個別専門相談

・新会員ご紹介

◆今月の表紙

金森美術館(旧金森船具店)

末広町の東浜橋近く、港に面して建てられているレンガ造りモルタル塗り、漆喰仕上げの重厚なルネッサンス・スタイルの建物が「金森美術館」である。その歴史は、明治十一年、当時の豪商であった初代渡邊熊四郎氏が、金森洋物店の支店として「金森船具店」を開設したのが始まりで、二度の大火で焼失したが、明治四十四年(一九一一年)五月に建てられたものが現存していた。

所有者の金森商船株式会社、その活用のために改修工事を行い、平成元年八月から金森美術館として蘇った。同美術館ではクリスタル・ガラスの世界的な名品であるパリのバカラ・ミュージアム所蔵品の中から、厳選し復刻したバリ以外では見ることができない貴重なバカラコレクションを展示、明治館や金森倉庫などととも、歴史的観光施設群の一員として知られている。

視点



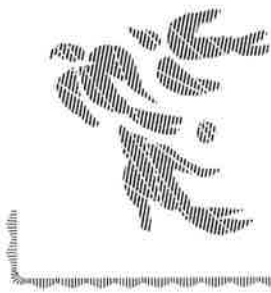
平成五年も秋の候を迎えました。今年エルニーニョの発生、そして偏西風の蛇行など、異常気象の要因が強く現れ、世界規模で大きな気象変動が惹起されています。

北海道もこの例外でなく、当地域でも例年になく強いオホーツク高気圧の影響を受け、春から夏にかけての冷たい大気の流入、日照時間の不足と多雨が見られ、まさに冷夏となり、二十五度Cを越す日は数日よりありませんでした。

このため、夏物商戦は勝負をきめる間もなく終り、農作物は生育に二週間の遅れを生じているとのこと。

また、これに加えて七月十二日には、奥尻島を中心とした北海道南西沖地震が発生、その損害は一十億を越し、復旧には大変な時間と費用がかかる状況となっています。

このようにみえますと、どうも今年は異常気象を中心に、地球の不安定さが強く現れてきているような気がしてなりません。長い地球の歴史からみると、異常な気象変化は数多くあったことは事実です。現在この原因として、空气中の炭酸ガス増による温室効果が増えられており、このガスの増加を世界的規模で制限するための国際会議も開催されています。炭酸ガスの放出は、世界第一位のアメリカを始め、その上位を先進諸国で占めており、人間の生活向上とも強く結びついていることから、これを減らすことは非常に難しい問題です。しかし、国民一人一人がエネルギー資源の節減に努め、物資の再利用をはかっていくことは、今すぐからできますので協力していきましょう。



会 議 所 の 動 き

第8回常議員会

及び常議員懇談会を開催

本所第八回常議員会は、去る八月二十五日、本所会議室において議員二十人が出席して開催されました。

初めに若林会頭から「全国まだ模様といわれる経済環境のもとで、新政権の具体的な政策に対する不安や、円高問題も加わり、その先行き見通しは不透明になって



▲冒頭挨拶する本所若林会頭

いる現状にある。これらの状況のもとで、本所事業の積極的推進を図る上からも後刻予定の懇談会の中で議員各位の活発なご意見を賜りたい。また、会員の増強については、議員各位のご支援をいただき進めているところであるが、会議所の基盤充実の上からも目標達成に向い、引続き強力なご協力をお願い致したい」旨の挨拶がありました。

次いで議事に入り、まず報告事項として、議員の異動、陳情要望活動、部会委員会開催状況について報告がなされ、いずれも異議なく了承されました。続いて、附議事項に入り、北海道南西沖地震及び鹿児島の中豪雨災害に対する見舞金、北海道南西沖地震による本所被害（建物の補修）、新会員の加入について審議され、それぞれ原案どおり異議なく承認・議決されました。

また、引続き行われた懇談会では、新内閣の誕生により新たな対応が必要となった新幹線陳情活動の強化や、市内経済団体の統合に向けた取り組み強化等について積極的な発言がありました。

日商会頭に稲葉氏を選任

日本商工会議所の第四百十八回常議員会並びに第二百二十五回議員総会、臨時会員総会が、去る八月二十四日東京・帝国ホテルで開催され、石川六郎会頭の退任に伴う会頭の選任が行われました。

その結果、後任として東京商工会議所会頭の稲葉興作氏（石川島播磨重工業㈱社長）が第十六代会頭に選任されました。



▲稲葉日商会頭

また、石川前会頭については、名誉会頭就任が決定しました。

港湾計画等について函館市と協議

合同議員部会開催

本所六部会による、合同議員部会が去る八月九日、五島軒駅前店において開催され、三十九名が出席、各部会に共通する次の二テーマについて函館市より担当者を引き説明を受け懇談しました。

まず初めに、港湾部施設課播摩計画係長より「函館港湾整備と港町地区の土地利用について」と題し、港湾計画の概要について、その背景と方針、交流機能、緑地



▲港湾計画を説明する播摩係長

レクリエーション機能並びに物流機能の充実などについて説明がなされました。

また、先の北海道南西沖地震における港湾関係の被害状況についても、併せて説明がありました。

続いて、商工観光部商工振興課古川課長より「函館市小売商業振興ビジョン」について、商業を取り巻く環境や影響等の変化をふまえて説明がなされました。これは、昭和五十七年策定の旧ビジョンが、当時では予測し得なかった大店法の規制緩和など、大きな商業環境の変化が近年起きていることから、二十一世紀に向けた新たな小売商業振興に関する基本方針を策定したもので、今後の振興策や実現に向けての取り組み方向が明示されています。

説明の後、各議員との間で、活発な質疑応答が行われました。

また、農水産・理財の両部会で

は、前任者の退任により空席となっていた部会長の選任を行うため、去る八月四日には農水産部会が、次いで八月三十日には理財部会がそれぞれ開催されました。

両部会での部会長選任の結果は、次のとおりです。

▼農水産部会

部会長 吉原英吉(函館定温冷蔵)

▼理財部会

部会長 渡部明男

(※北海道拓殖銀行函館支店)

なお、任期につきましては、いずれも前任者の残任期間(平成六年九月三十日まで)です。

道経連

「地域経済懇談会」開催

北海道経済連合会主催の函館地域経済懇談会は、去る八月十九日、函館ハービービューホテルにおいて開催されました。当日は、北海道経済連合会から中野会長を始め役員十三名の方が、そして当地域から木戸浦市長、若林会頭など経済界を中心に三十六名が出席しました。

この懇談会は、北海道経済連合会が、各地域の諸課題に的確に対応し、活動に反映させていくため、道内主要都市で開催しており、当市においては、平成二年十二月以来の開催となりました。

懇談会では、高速交通体系の整備促進、地域の国際化についての取り組み、観光をめぐる現状と課題、第二国土軸形式と青函インターロック交流圏構想等についての意見交換が行われました。また、その中で北海道縦貫自動車道の函館側からの早期着工や丘珠空港の滑走路延長問題等について、より一層の支援協力がなされました。



▲地元経済界を代表して挨拶する本所若林会頭

函館空港のC-IQ施設が着工 国際線ターミナルビル起工式

来年四月、函館市とロシア・ユジノサハリンスク市を結ぶ国際定期航空路線が開設されるのを機会に、去る八月十一日、函館空港において、国際線ターミナルビルの起工式が行われました。

この工事は、函館空港ビルディング(株)が、現在の同空港ビル西側に、鉄筋コンクリート二階建て、延べ約二千三百平方メートルのC I Q



▲工事の安全を祈る出席者

(税関、入管、検疫)に必要な施設を建設するものです。

青函ゆかりの会5周年記念祝賀会

青函ゆかりの会(会長 小笠原金悦本所副会長)の設立五周年記念祝賀会が、去る八月二十三日、函館ハーバービューホテルで開催されました。

この会は、青森にゆかりのある市内及び近郊在住の方で組織し、青森市・函館市のツイン提携に伴い、今後より親交を深め、ツインシティの発展に寄与することを目的として平成元年七月に設立されました。

当日は、木戸浦市長、若林会頭をはじめ行政・経済関係者など三百人が出席、青森からも、今収入役、田中副会頭、大道寺みちのく銀行頭取等が参加し、五周年を祝福すると共に、今後の人的、経済的交流推進へ努力することを誓う

式では、木戸浦函館市長や本所若林会頭を始めとする地元経済界や空港関係者など約百三十名が出席し、来年二月末の完成を目指して工事の無事を祈りました。

など、終始なごやかな雰囲気なかで祝賀会が行われました。

姉妹都市提携1周年記念 ウラジオストク市訪問

函館・ウラジオストク姉妹都市提携一周年を記念して、客船「飛鳥」によるウラジオストク市訪問が、木戸浦市長を団長とする公式代表団及び市民一行総勢約三百名の参加のもと、去る八月二十七日から三十日までの四日間実施され、本所若林会頭、小笠原副会長、そして青森からも沼田会頭らが公式代表団として参加しました。

訪問団一行は、豪華客船飛鳥の船旅を満喫する一方、ウラジオストク市では公式代表団による関係

機関表敬訪問を始め、文化公演の鑑賞や市内観光など、短い滞在時間ではありましたが精力的に日程をこなし、同市との友好親善に努めてまいりました。

中小企業診断士養成のための 総合診断実習を実施

中小企業大学校東京校、中小企業診断士養成課程の商業・工業両コース総合診断実習が、八月十八日(商業)八月二十三日(工業)から、それぞれ約一ヶ月の日程で当市にて実施されました。

商工両コースの同時実施は全国で初めて、本実習には中小企業大学校東京校に全国から派遣された研修生(商業四十二名、工業七十二名)と、指導に当るインストラクターが参加し、商業については、広域商業診断・商店街診断・個店診断を実施し、また工業については、当市の主要産業である水産加工業を対象に産地診断が実施され、その診断報告会が関係者出席のもとに、工業九月三日、商業九月八日それぞれ開催されました。



事務局日誌

8月

* 正副会頭会議

- 10(火) 第44回正副会頭会議
- 25(水) 第45回正副会頭会議

* 常 議 員 会

- 25(水) 第8回常議員会

* 部 会

- 4(水) 農水産部会
- 9(月) 六部会合同(議員)部会
- 30(月) 理財部会

* 委 員 会

- 4(水) 創立百年記念事業記念誌編纂小委員会
- 18(水) 総務委員会

* 会 議 (日 商)

- 24(火) 第418回常議員会
 - ◇ 第125回議員総会
 - ◇ 臨時会員総会
 - ◇ 日商新会頭就任披露パーティー

* 諸 会 議

- 3(火) 特定中小企業集積の活性化に関する臨時措置法に基づく新設融資制度説明会
- 4(水) 平成5年度経営改善普及事業説明会
- 5(木) 第4回ウラジオストク市訪問クルーズ実行委員会
 - ◇ 札幌国税局「財政経済セミナー」
- 6(金) ◇ ◇
 - ◇ 財政金融講演会(主催/函館財務事務所)
 - ◇ 渡島・桧山地域雇用開発会議及び(社)北海道雇用開発協会との交流会議
- 9(月) 北海道新幹線建設促進期成会平成5年度第3回幹事会
- 11(水) 北海道南西沖地震災害に伴う「中小企業経営・労働相談」
- 13(金) 北海道商工観光部観光室による北海道キャンペーン事前説明
- 17(火) 函館日英協会理事会、総会、懇親会
- 18(水) 中小企業大学校第31期総括研修開校式
- 19(木) 北海道経済連合会地域経済懇談会、懇親会
- 20(金) 新函館市観光基本計画検討委員会
 - ◇ 陸上自衛隊北部方面総監青戸陸将を囲む懇談会
 - ◇ 函館地域デザイン振興連絡会議
 - ◇ 平成5年度第2回函館社会保険委員会役員会、懇親会
 - ◇ 所報「ともえ」9月号 No. 145編集会議
- 21(土) 新都市五稜郭協議会夏期例会
 - ◇ (社)隊友会全道研修会、懇親会
- 23(月) 第2回湯の川温泉街活性化事業計画策定部会
 - ◇ 平成5年度経営指導員研修(Bコース地域近代化の指導法)
- 24(火) 新規学校卒業業者職業紹介業務打合せ会議・職業研究セミナー
 - ◇ 北海道商工観光部観光室観光振興課長による北海道キャンペーン事前説明
- 26(木) 規制緩和推進懇話会(主催、北海道管区行政監察局)
- 27(金) 函館圏企業誘致推進協議会圏域内に支店等を有する道外企業との懇談会

- 27(金) 函館市競輪運営協議会
 - ◇ 函館繊維商組合正副組合長会議
 - ◇ 65歳継続雇用推進事業説明会
- 30(月) ほうとう日本シンポジウム(北海道・東北21世紀構想推進会議主催) 仙台市
- 31(火) 中小企業金融公庫函館支店との事務打合せ会
 - ◇ 小規模事業者支援促進法の運用に係る説明会
 - ◇ 管理職会議

* 講 習 ・ 催 物

- 19(水)~24(火) 新潟の物産と観光展
- 24(火) 経営安定特別セミナー「新規開拓力強化講座」
- 27(金) 法律相談
- 29(日)~9/5(月) 函館の24時間写真展

* 刊 行 物

所報「ともえ」8月号 No. 144

* 相 談 ・ 診 断

金融 123 税務 11 経理 19 経営 96 労働 0
取引 0 その他 1 合計 250

* 貸 室 13

* 文 書 受信 224 発信 17

* 検 定 試 験

- 22(日) 4級ワープロ技能検定試験

* 陳 情 ・ 要 望

- 4(水) 重要港湾函館港の災害復旧に関する陳情
- 18(水) ◇ ◇
- 19(木) 函館・新千歳及び仙台間直行航空路線の存続に関する陳情

* 慶 弔 ・ そ の 他

- 1(日) 平成5年度函館市功労者表彰式
 - ◇ 開港134周年記念函館港まつり開会式
- 2(月) 開港5都市ミス交流会及び函館港まつり万人踊りパレード出発セレブション
 - ◇ 函館港まつり万人踊りパレード出発式
 - ◇ 函館港まつり万人踊りパレード(十字街コース)
- 3(火) 海上自衛隊第3護衛隊群司令午来邦夫海将補表敬訪問
 - ◇ 陸上自衛隊第28普通科連帯西山洋連隊長、函館地方連絡部北川義昭一等空佐表敬訪問
 - ◇ 函館港まつり万人踊りパレード出発セレブション
 - ◇ 函館港まつり万人踊りパレード出発式
 - ◇ 函館港まつり万人踊りパレード(五稜郭コース)
- 4(水) 海上自衛隊第3護衛隊群旗艦「はるな」入港記念昼食、見学会
- 5(木) 函館港おどり大会、いか踊り大会
- 7(土) 開港134周年記念函館港まつり閉会式
- 8(日) 市電・市バスマつり
- 9(月) 日本航空(株)札幌支店長柳倫太郎氏表敬訪問
 - ◇ 北海道南西沖地震に対する義援金(港まつり)伝達式
- 11(水) 函館空港国際線暫定ターミナルビル工事起工式
- 16(月) 函館プロモーションビューローチャリティーパーティー
 - ◇ 平成5年度中小企業診断士養成課程商業・工業両コース総合診断歓迎セレブション
 - ◇ 青函ゆかりの会5周年祝賀会
- 24(火) (協)函館専門店会ハコセンビル落成披露
 - ◇ 函館空港ビルデング(樺島島取補役表敬訪問)
- 25(水) 道議会議員桜井外治氏北海道議会議長就任祝賀会
- 26(木) 客船「飛鳥」内覧、昼食会
 - ◇ サハリン航空社長、副社長との夕食懇談会
- 27(金) 函館ウラジオストク姉妹都市提携1周年記念訪問「友好クルージング飛鳥」出発式(～8/30)
- 30(月) F M北海道代表取締役社長池上忠行氏表敬訪問

迷から依然低調裡に推移している。

(4) 建設関連

管内主要5官庁の公共事業発注額（7月末累計）は、7月中の発注額減少から前月に比べ若干伸びが鈍化したものの、プラス9.3%と引続き前年を大きく上回って推移している。また、函館市および周辺3町の新設住宅着工戸数（7月）は、持家、分譲が前年を上回ったものの、これまで高い伸びを示した貸家が一時的に低調だったことから、全体ではマイナス16.8%と再び前年を下回った。この間、建設業者の受注状況をみると、製造業を中心に民間設備投資関連には目立った動意が感じられないものの、公共工事、住宅投資関連は好調を継続している。

(5) 農・漁業

農業では、7月中旬からの著しい低温により水稲の生育遅れが拡大し、足許全道並みの不良となっており、先行き作況の悪化が懸念される。馬鈴薯はほぼ平年並みの生育となっているが、一部には品質の低下も見受けられる。野菜の出荷量は日照不足の影響から平年に比べ減少しており、価格は安値だった昨年に比べ高騰、平年比でもやや高めの水準。漁業では、近海真イカ漁が好漁となっており、魚価は弱含みに推移。また渡島管内コンブ漁は、6月初旬の低気圧通過による流出被害等により、通期の水揚げは前年を大きく下回る見通し。

(6) 消費関連

7月中の市内大型小売店（10店）の売上高は、アクセサリ等小物に動意がみられるものの、天候不順による夏物衣料の低迷、法人

需要の減退による中元商戦の不振から、11カ月連続の前年割れ（マイナス6.9%）となっている。耐久消費財では、新車自動車販売が大・中型車の不振に加え、大衆車も前年割れとなったことから、全体でもマイナス9.2%と4カ月連続の前年割れとなった。一方、家電販売は、異常気象の影響から冷蔵庫の売上が不振だったものの、その他商品は全般的に底固い売れ行きをみせている。この間、観光・レジャー面をみると、団体ツアーを中心とした旅行需要減退に加え、地震直後のキャンセル発生もあって、函館空港乗降客数が2カ月連続して前年を下回るなど、総じて盛上りに欠ける展開。

3.金融事情（7月中）

実質預金は、個人預金を中心に盛上がりから欠いたものの、公金預金の流入増や7月末休日に伴う決済資金の高止まり等から月中176億円と前年のマイナス71億円とは様変わり増加となった。また、貸出しも休日要因から月中117億円と前年の42億円を上回ったが、運転・設備需資とも、依然低調裡に推移。この間、管内銀行の貸出し約定平均金利は、月中マイナス0.022%と引続き低下となった。

銀行券は、夏場行楽資金の還流から前年の155億円に比べて月中133億円の還収超となった。

財政収支は、租税、保険等の受入増加を主因に、前年の101億円に比べて月中118億円の受超となった。

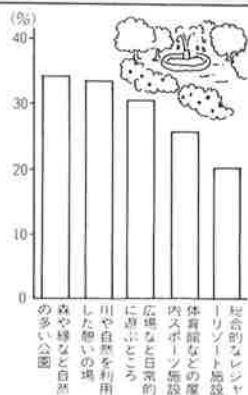
データをチェック!

少ないスポーツ・文化施設と自然
～余暇空間～

余暇がお盆や正月の一時的に集中し、使うお金も費用の安いギャンブルや飲食に偏っていますが、この傾向は余暇施設にそのまま表れています。国内には、パチンコ店とゲームセンターを合わせた数が数万店あるのに対し、プールは約9,000カ所、テニスクラブは約1,250カ所、さらに、美術館や博物館にいたっては約800カ所とけた違いに少ないのです。娯楽施設に比べ、スポーツ・文化施設が立ち遅れていることが分かります。今後、余暇活動が多様化する中で、わたしたちが豊かさを実感することができるためには、余暇施設の整備が重要な課題の一つとなるでしょう。

このような状況の下で、国民が充実させてほしいと思っている余暇施設は、「森や緑などの自然の多い公園」33.9%、「川や自然を利用した憩いの場」33.1%、「広場など日常的に遊ぶところ」30.4%となっています。施設というよりは、日常的に利用することができる広場や公園、森、川など、自然の空間を利用したものにニーズが集中しています。

充実させてほしい余暇施設



地域の景気

金融経済 概況 7月

(平成5年8月30日発表)

日本銀行函館支店

1. 概況

管内経済は、公共事業の発注が好調を継続していることに加え、住宅投資も回復基調にあるものの、天候不順の影響もあって個人消費の低迷が続いているほか、夏場観光客の入込みも総じて盛上りを欠いている。このため景気全体は底入れを探る展開のなかで、足踏み状態となっている。

すなわち、製造業では、半導体、水晶振動子が輸出向けに高水準の生産を続けているほか、セメントも、地震発生による一時的な操業度の低下はあったものの、官公需を主体にフル生産態勢で臨んでいる。また、豊富な受注残を抱えている造船、合板機械も総じて高めの生産水準を維持。これに対して、水産加工機械の売上が前年の輸出増の反動等から減少しているほか、製缶機械の生産も消費関連需要の不振から依然低調。一方、非製造業では家電販売の底打ち感が窺われているものの、市内大型小売店の売上が、夏物衣料の低迷等から11カ月連続の前年割れとなったほか、自動車販売も4カ月連続前年を下回った。この間、夏場観光客の入込みは団体ツアーを中心とした旅行需要減退等から、総じて盛上りに欠ける展開となっている。

農業は、7月中旬からの著しい低温により水稻の生育が大幅に遅れ、作柄が全道並みの不良となっているほか、野菜の出荷量も日照不足の影響等から減少しており、価格は平年に比べやや高めの水準。漁業では、近海真イカ漁が好漁であり、魚価は弱含みに推移。また、渡島管内コンブ漁の水揚げは、低気圧による流出被害等から前年を大きく下回る見通し。

こうしたなか、北海道南西沖地震の被害額は釧路沖地震を上回る規模となっている。管内経済に対するその後の影響を窺うと、漁業では、桧山北部の沿岸で真イカ漁が再開され

たものの、出漁隻数が少ないため、水揚げは大幅に前年を下回る見込み。農業では、同じく桧山北部の農業地帯において、用水施設の損壊から十分な冷夏対策を実施できず、水稲の作柄悪化が憂慮されている。建設筋では、足許港湾、漁港等の官庁工事を中心に津波の被害による工事進捗の遅れがみられるが、秋口以降の本格的な災害復旧工事の発注が期待されている。また、観光面では、地震直後こそ団体客ツアーのキャンセルの動きも目立ったが、8月以降そうした動きは鎮静化している。

7月の金融動向をみると、預金は公金預金の流入増や月末休日高止まりからかなりの増加。また、貸出しは総じて弱基調ながら、休日要因から前年を上回る増加となった。この間、管内銀行の貸出し約定平均金利は、引続き低下した。

2. 主要業種別動向

(1) 機械・電子部品

水晶振動子は、欧米向け移動体通信関連の受注好調から高水準の生産を継続している。造船は、新造船、橋梁の受注残消化からまずまずの操業度、また合板機械も豊富な受注残を背景にやや高めの生産水準を維持。さらに半導体では、米国向け4MDRAMの好調継続に加え、その他製品需要も増勢傾向にあるため、全体の操業度が上向きつつあり、前向きの設備投資も計画されている。これに対して水産加工機械は、前年の輸出好調の反動から前年を下回る売上となっており、製缶機械でも、消費関連需要の回復遅延から生産の低迷が続いている。

(2) 食料品

水産加工の売上は、生鮮珍味では、中元セールにおける高単価品の売れ行き鈍化がみられたものの、総じて底固い動き。乾燥珍味では、原料安による商品納入価格の低下から売上は前年を下回っているが、数量的には幾分持ち直している。一方、飼料・魚油の売上は引続き前年を下回った。

(3) その他製造業

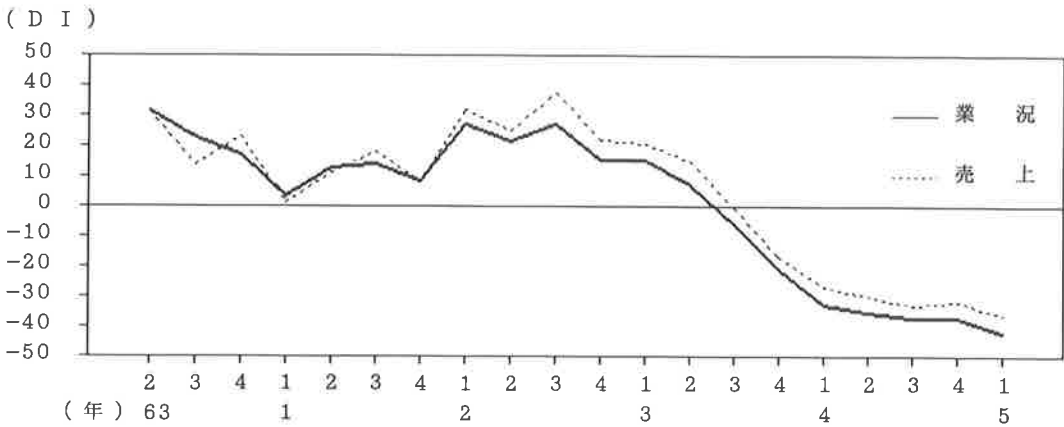
セメントは、地震発生による一時的な操業度の低下がみられたものの、その後は官公需を主体にフル生産態勢で臨んでいる。一方、生コンでは、官公需が引続き好調ながら、津波の被害による桧山地方沿岸部の工事進捗の遅れに加え、民需の落込みもあって全体の出荷量は前年を下回った。また、段ボールの生産・出荷は青果物、水産物の荷動きが鈍いことから低調となっており、合板でも、安値代替品への需要シフトや競合する輸入製品の流入増等から生産、出荷ともに前年割れが続いている。さらに漁網の受注・生産も需要の低

3. 資金繰りについて

来期の資金繰りについては、全業種で今期に比べ「好転」とみる企業2.8%に対し「変わらない」とする企業が79.4%、「悪化」

するとみる企業17.8%で、D Iは-15.0となり、資金繰り状況は今期と同様の見通しとなっている。

図-7 業況・売上額のD Iの推移
(全業種・対前年同期比)



函館市内、第一種大規模小売店舗売上高<10店>

平成5年7月

品名	売上高(千円)	対前月比(%)	対前年同月比(%)
衣料品	3,156,417	115.0	88.7
身の回り品	693,623	102.7	95.7
雑貨	721,132	113.7	96.6
家庭用品	710,549	83.0	91.7
食料品	2,233,741	128.3	97.2
食堂・喫茶	157,895	115.1	92.6
サービス	61,527	62.0	54.1
その他	585,477	112.0	106.7
総計	8,320,361	112.3	93.1

統計資料

<10店>棒二森屋、丸井今井、さいか、和光、ダイエー五稜郭、
テーオー小笠原、長崎屋、イトーヨーカ堂、函館西武、ダイエー湯川店の各店

「同業者間の競争」がそれぞれ 9.5%となっている。

来期(7月～9月)の見通し

今 期：5年4月～6月実績
前年同期：4年7月～9月実績

1. 業況について

函館地域企業の来期業況見通しを全業種で見ると、今期に比べ「好転」するとみる企業14.5%に対し、「横ばい」とみる企業59.1%、「悪化」するとみる企業26.4%となっており、D Iは-11.9。

前年同期比で見ると、「好転」8.3%に対し、「横ばい」58.9%、「悪化」32.8%で、D Iは-24.5となっており、引続き厳しい見通しとなっている。

業種別のD Iで見ると、今期比では、建設業-8.7、製造業0.0、卸売業-5.9、小売業-22.9、サービス業-30.5。

前年同期比のD Iでは、建設業-17.4、製造業-29.2、卸売業-15.7、小売業-27.7、サービス業-34.8といずれの業種も厳しい見通しとなっている。

図-5 来期の業況見通し (対前年同期比)

	(D.I) 好転	横ばい	悪化
全業種 (-24.5)	8.3	59.9	32.8
建設業 (-17.4)	13.0	56.0	30.4
製造業 (-29.2)	8.3	54.2	37.5
卸売業 (-15.7)	5.9	72.5	21.6
小売業 (-27.7)	8.5	55.3	36.2
サービス業 (-34.8)	8.7	47.8	43.5

2. 売上額について

来期の売上見通しを全業種で見ると、今期に比べ「増加」するとみる企業20.7%に対し、「横ばい」とみる企業51.6%、「減少」とみる企業27.7%で、D Iは-7.0。

また、前年同期比で見ると、全業種では「増加」6.6%に対し、「横ばい」が59.1%、「減少」は34.3%で、D Iは-27.7となり、引続き減少傾向が見込まれている。

図-6 来期の売上見通し (対前年同期比)

	(D.I) 増加	横ばい	減少
全業種 (-27.7)	6.6	59.1	34.3
建設業 (-36.8)	5.3	52.6	42.1
製造業 (-30.9)	4.7	59.5	35.7
卸売業 (-24.0)	4.0	68.0	28.0
小売業 (-21.3)	10.4	57.5	31.9
サービス業 (-34.8)	8.7	47.8	43.5

次に来期の売上見通しを業種別のD Iで見ると、

【建設業】

今期比-10.0、前年同期比-36.8と厳しい見通し。前年同期比で増額を見込んだ企業は1社にすぎない。

【製造業】

今期比-4.7、前年同期比-30.9と引続き減少傾向。水産加工業を除くと、前年同期比で増額を見込む企業はなかった。

【卸売業】

今期比0.0、前年同期比-24.0となっており、医薬・化粧品業で増額を見込む企業が多くなったが、他は厳しい見通しとなっている。

【小売業】

今期比-10.5、前年同期比-21.3と引続き厳しい見通し。各種商品小売業、自動車小売業の一部で増額を見込む企業もみられたが、ほかには「横ばい」または「減少」を予想する企業が多くなっている。

【サービス業】

今期比-17.4、前年同期比-34.8と厳しい見通し。観光関連業種においても慎重な見通しの企業が多くなっている。

イナスに転じたほか、職別工事業、設備工事業では、前期比、前年同期比ともに「増加」と回答した企業がないなど、厳しい状況となっている。

【製造業】

今期の生産額についてのD Iは、前期比が4.2、前年同期比-25.0となって、本格的需要期を迎えた水産加工業を中心に一息ついた感があるが、依然水準は低い。

【卸売業】

今期の売上額についてのD Iは、前期比-17.7、前期同期比-29.3となり、医薬品・化粧品卸売業、建築材料卸売業では比較的堅調に推移しているが、他は引続き低水準となっている。

【小売業】

今期の売上額についてのD Iは、前期比-28.6、前年同期比-50.0となって、個人消費の停滞から、いずれの業種も依然低調に推移している。

【サービス業】

今期の売上額についてのD Iは、前期比-17.3、前年同期比-52.3と依然低調。「行楽期を迎えた観光関連業種も依然低水準で推移している。

3. 純利益について

今期の純利益を全業種で見ると、前期に比べ「増加」している企業13.0%に対し、「横ばい」が41.7%、「減少」している企業45.3%で、D Iは-32.3となり、引続き減少傾向で推移。

また、今期の純利益を前年同期比で見ると、全業種では「増加」6.3%に対し、「横ばい」39.5%、「減少」54.2%で、D Iは-47.9となり、依然採算は悪化傾向にある。

業種別にみても、すべての業種で前期比、前年同期比ともD Iが2ケタのマイナスとなっている。

図-3 今期の純利益（対前年同期比）

	(D.1) 増加	横ばい	減少
全業種 (-47.9)	6.3	39.5	54.2
建設業 (-50.0)	0.0	50.0	50.0
製造業 (-38.2)	10.0	42.0	48.0
卸売業 (-43.2)	7.0	41.2	51.0
小売業 (-60.3)	4.2	31.3	64.5
サービス業 (-54.6)	4.5	38.4	59.1

4. 資金繰りについて

今期の資金繰りを全業種で見ると、前期に比べ「好転」している企業3.2%に対して、「変わらない」とする企業が74.8%、「悪化」している企業22.0%で、D Iは-18.8と、引続き厳しい状況となっている。

図-4 今期の資金繰り（対前期比）

	(D.1) 好転	不変	悪化
全業種 (-18.8)	3.2	74.8	22.0
建設業 (-5.0)	0.0	95.0	5.0
製造業 (-11.4)	0.0	88.6	11.4
卸売業 (-17.7)	3.9	74.5	21.6
小売業 (-27.0)	2.3	60.4	33.3
サービス業 (-30.5)	4.3	60.9	34.8

5. 経営上の問題点

今期最も苦慮している経営上の問題点としては、前期に引続き「売上・受注の不振」をあげる企業が50.0%で最も多く、またこれは、いずれの業種でもトップにあがっている。

その他の問題点を業種別にみると、

建設業では「純利益の減少」17.5%、「求人難」・「景気の見通し難」がそれぞれ8.7%。

製造業では「景気の見通し難」18.8%、「人件費等経費の増加」16.7%、「純利益の減少」10.4%。

卸売業では「純利益の減少」15.7%、「販売価格の値下がり」が13.7%。

小売業では「客足の減少」12.8%、「純利益の減少」10.6%。

サービス業では「客単価の値下がり」19.0%、「客足の減少」14.3%、「人件費の増加」・

函館地域における 景気動向

〈平成5年度・第1四半期〉

平成5年度・第1四半期（平成5年4月～6月）の函館地域における景気動向調査（本所調査）結果がまとまりましたので、概況をお知らせします。

尚、調査対象及び回収状況は次の通りです。

業種別	対象企業数	回収企業数	回収率
全業種	320社	195社	60.9%
建設業	40	23	57.5
製造業	80	48	60.0
卸売業	70	51	72.9
小売業	90	50	55.6
サービス業	40	23	57.5

（注）本調査結果の中のD Iとある記号は、
デフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略で、各調査項目について増加（好転・上昇）企業割合から減少（悪化・低下）企業割合を差し引いた値を示しています。

今期(4月～6月)の実績

前 期：5年1月～3月実績

前年同期：4年4月～6月実績

1. 業況について

函館地域企業の今期業況を全業種で見ると、前期に比べ「好転」している企業16.0%に対し、「横ばい」が50.0%、「悪化」している企業34.0%で、D Iは-18.0となっており、引続き悪化基調で推移した。

業種別のD Iで見ると、製造業で2.1とプラスに転じたほかは、建設業-21.8、卸売業-19.6、小売業-30.6、サービス業-26.1といずれも2ケタのマイナスとなっている。

また、今期の業況を前年同期比で見ると、

全業種では、「好転」6.3%に対し、「横ばい」45.3%、「悪化」48.4%で、D Iは-42.1となり、平成3年度第3四半期以来、7期連続のマイナスとなった。

業種別のD Iで見ても、いずれの業種もマイナス幅が大きく、40～60%の企業が業況の悪化を訴えている。

図-1 今期の業況（対前年同期比）

(D.I)	好転	横ばい	悪化
全業種 (-42.1)	6.3	45.3	48.4
建設業 (-36.4)	4.5	54.6	40.9
製造業 (-23.3)	6.3	54.1	39.6
卸売業 (-33.3)	9.8	47.1	43.1
小売業 (-58.2)	4.2	35.4	60.4
サービス業 (-59.6)	4.3	54.8	40.9

2. 売上額について

今期の売上額を全業種で見ると、前期に比べ「増加」している企業18.6%に対し、「横ばい」が45.3%、「減少」している企業36.1%で、D Iは-17.5となり、引続き減少傾向。

また、今期の売上額を前年同期比で見ると、全業種では「増加」8.9%に対し、「横ばい」45.8%、「減少」45.3%で、D Iは-36.4となり、やはり7期連続のマイナス、依然低水準で推移している。

図-2 今期の売上額（対前年同期比）

(D.I)	増加	横ばい	減少
全業種 (-36.4)	8.8	45.8	45.3
建設業 (-31.9)	4.5	59.1	36.4
製造業 (-25.0)	6.3	62.4	31.3
卸売業 (-29.3)	13.8	43.1	43.1
小売業 (-50.0)	10.4	29.2	60.4
サービス業 (-52.3)	4.3	39.1	56.6

次に売上額を業種別にみると、

【建設業】

今期の工事完成額についてのD Iは、前期比-39.2、前年同期比-31.9となったが、前期まで比較的好調であった総合工事業でもマ

厚生省の職員に関する エイズの取扱い方針

エイズと企業 — 予防と対策 — (4)



エイズ予防財団 専務理事
医学博士 山形 操 六

■ 厚生省発表 (平成4年12月17日)

エイズの対策は世界共通の重要な課題となっているが、わが国のエイズの現状についてみると、近年患者や感染者が急増しており、蔓延の防止とこの病気に対する国民の理解を深めていくことが緊急の課題となっている。

特に最近、エイズに対する正しい知識や理解が不十分なため、エイズ患者に対する差別や偏見が指摘されている。

厚生省としては、今後とも知識の普及や検査体制の充実に全力を挙げていくこととしているが、国民のエイズに対する理解をさらに得るため、厚生省の職員に関するエイズの取扱い方針を定めた。

1. 採用について

厚生省は、エイズウィルス感染者であっても採用にあたって差別することなく、一般の採用と同様の取扱いを行う。

2. 職員にエイズ感染者または患者が発生した場合について

(1) 感染者や患者であっても、他の職員と同様に扱っていくとともに、他の疾病と同様、本人の健康状態に応じた人事上の配

慮を行っていく。

なお、プライバシーの保護には、十分配慮する必要があると考える。

(2) エイズに関する研修や職員を対象とした啓発教育などを行うことにより、適切な対応ができるようにしてまいりたい。

3. 他省庁に対する呼びかけについて

エイズ対策は、厚生省だけでなく、国、地方公共団体挙げての取組みが必要であるので、人事院、総理府、総務庁、自治省等各省庁にも協力を呼びかけるとともに、民間企業等についても

ご理解をいただきたい。

東京都も同様主旨の声明を出した。今後各企業の経営者も同様の姿勢を示し、文書で宣誓するようになるであろう。
つづく

【山形操六（やまがた・そうろく）氏の略歴】

大正7年東京生まれ、昭和18年慶応義塾大学医学部卒。28年岩手県衛生研究所長。31年厚生省入り。医務局国立病院課勤務。45年千葉県衛生部長。46年環境庁発足時、初代の大気保全局長。62年財団法人エイズ予防財団専務理事。

患者・感染者の年次推移
国籍・性別

